

令和3年度 さいたま市立大砂土中学校 学校関係者評価書

さいたま市立大砂土中学校

学校関係者評価委員長 中浜 邦夫



1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数

10名

(2) 実施回数

3回

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- ・部活動は異年齢の集団の活動を通して、授業では得ることのできない経験を積むことができる貴重な機会である。感染拡大防止のため、停止となる期間もあるが大切にしてほしい。
- ・学校での新型コロナウイルスの影響は多くあると思うが、自治会においても会合等は軒並み中止となっているのが現状である。「地域の活動に関心があるか」のアンケート項目について、地域で活動を自粛しているため、評価が下がってしまうのは仕方がないのではないかな。
- ・民生委員会の活動においても、ほとんどの行事が中止となっている。子どもも含め、みなストレスを感じていないか心配である。
- ・公民館も地域との行事を工夫して行っている。大砂土中学校の先生と生徒の皆さんにお願いしたパソコン教室では世代間交流が行われ有意義な教室となり感謝している。
- ・2月の学校だよりに2学年のスキー教室直前の中止について掲載があった。子どもたちの心のキズを少しでも癒そうと校長先生をはじめとする先生方の温かい気遣い、心遣いに改めて感謝する。
- ・小学校では、家族の看護やその他周辺者となった教職員の出勤ができない状況がある。教科担任制でないため、1日自習となったり職員室がひっ迫したりして、教職員のストレスも高まっている。お互いに、「思いやりやさしさ」が必要である。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・本年度も修学旅行や自然の教室が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となるなど、学校行事に支障がでたことは否めない。しかし、体育祭や合唱コンクール等の学校行事、体験出前講座やパソコン教室等の地域との交流はできる範囲で実施した。このような取組が地域から、「学校は工夫して取り組んでいる」と評価をいただけたと感じている。
- ・自治会や公民館の年間の取組を確認し、子どもたちに「どのような取組が参加可能か」を洗い出した上で周知し、子どもたちが地域の活動に積極的に参加できるよう工夫していく。
- ・本会議に学校運営協議会準備委員会を位置づけ、委員の皆さまと「防災」について熟議をし、地域、学校、保護者のそれぞれの立場から何ができるかを熟慮と議論を行うことができた。
- ・次年度からコミュニティ・スクールが始動するが、「学校運営協議会」と地域学校協働活動推進のための「SSN」が互いに連携・協働できるよう人選も含め、準備していく。そのためには、「学校運営協議会」と「SSN」の住み分けをし、特に「SSN」の人選や会議実施時期、協議内容についてビジョンを描いた上で推進していく必要がある。